



令和4年度文部科学省ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業選定（令和4年度～10年度、7年間）

# 埼玉・群馬の健康と医療を支える 未来医療人の育成 Newsletter

創刊号

■ 発行 埼玉医科大学／群馬大学 Saitama Medical University / GUNMA UNIVERSITY

## 埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成事業がスタートしました！

### ■ 埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成事業とは

埼玉県は、医師偏在指標が全国の中でも低く、医師不足は深刻です。特に、北部、利根、秩父医療圏では、患者の群馬県への流出も多く、この地域の医療需給に関する問題は、埼玉県のみならず群馬県の医療提供体制を考える上でも重要です。このような背景を持つ両県の医育機関である埼玉医科大学と群馬大学が、現在のみならず将来を見据えて、地域を基軸として地域医療の現状を学ぶこと、将来地域医療の中で必要となるがん医療、難病医療、遺伝医療などに入学早期から触れること、地域の医療機関における体験実習を拡充すること、感染症医療、コモンディジーズの診療を含む総合診療に関する教育を推進することを目指し、両大学の学生が参加する利根川プログラムをはじめとした5つの教育プログラムを開発し、地域に必要な知識・技能・態度・価値観を共有する地域枠医学生の育成に取り組み、将来の地域医療に貢献できる医療人を養成するもので、文部科学省のポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業11拠点の1つに選定されています。

### ■ 協定締結

事業スタートにあたり、参加する20機関間で事業に関する協定を締結しました。締結式は、令和4年11月4日（金）、大宮ソニックシティ会議室において、埼玉医科大学別所正美学長、群馬大学石崎泰樹学長をはじめ、砂川埼玉県副知事、金井埼玉県医師会長、須藤群馬県医師会長、星埼玉県立大学学長ほか協定締結機関関係者の出席のもと執り行われました。



（前列左から、須藤群馬県医師会長、宮川群馬県健康福祉部医務課長、石崎群馬大学学長、別所埼玉医科大学学長、砂川埼玉県副知事、金井埼玉県医師会長、星埼玉県立大学学長、後列左から、木村済生会加須病院臨床研修センター長、柳澤埼玉県立循環器・呼吸器病センター病院長、森埼玉医科大学医学部長、伊藤深谷赤十字病院病院長、小湊群馬大学大学院医学系研究科長、山崎小川赤十字病院副院長）

### ■ 協定参加機関

埼玉医科大学、群馬大学、埼玉県、群馬県、埼玉県医師会、群馬県医師会、埼玉県立大学、埼玉県立循環器・呼吸器病センター、秩父市立病院、東松山市立市民病院、深谷赤十字病院、済生会加須病院、小川赤十字病院、小鹿野中央病院、公立藤岡総合病院、公立富岡総合病院、伊勢崎市民病院、桐生厚生総合病院、公立館林厚生病院、太田記念病院

## 本プロジェクトで大切にしていること vol.1

埼玉医科大学 副学長・医学部長 事業推進プロジェクトリーダー 森 茂久

### ■ 地域への愛着と地域医療を担う資質・能力・マインドの育成



埼玉医科大学、群馬大学ともにそれぞれの大学が位置する県の期待を受けて、地域枠の奨学金を受給する学生の教育に取り組んできました。全国的に地域枠の入学者選抜における課題や地域枠学生の地域への定着が課題として取り上げられることが多くなってきたこともあり、今回、地域への愛着と地域医療を担うマインドの育成という大きな目標を掲げて、本プロジェクトに取り組むことといたしました。

県の地域枠制度は、県民の期待のもと県民の税金を原資として運営されています。愛着を形成するためには、それを深く理解することが何よりも大切で、県民の健康や暮らしに焦点を当てて、その地域地域の特徴を把握するための方法を身につけることを大切にしています。特に、両県の県境には山はなく、板東太郎と呼ばれる利根川が境になっていることから、古くから交流は活発で、生活圏域をともにするといっても間違っておりません。埼玉県には私立大学である本学、群馬県には国立大学である群馬大学が、それぞれ唯一の医育機関であり、学生・教職員ともに交流が活発です。このような、両県にまたがる地域への愛着をもとに、教育プログラムを開発します。

この目標に賛同いただいた両県、両県医師会、埼玉県立大学、両県の地域医療機関の協力を得て、現場を理解する、現場を学ぶ、現場で学ぶことに取り組み、両大学の学生を含めた地域医療を志す若者を増やし、両県への定着を図っていきたくと考えています。

## 教育内容から

### ■ 埼玉医科大学のプログラム

優れた実地臨床医家の育成



埼玉医科大学では3つのプログラムを開発します。

教育プログラム1は、医学部の全学生を対象に、本学の建学の理念に示されているように、地域を基軸とした優れた実地臨床医家の育成を目指し、従来実施してきた1年～4年地域医療とチーム医療ユニットの学びを充実させるとともに、埼玉県医師会の協力のもと、1年生から在宅医療の現場を体験する実習を新たに導入します。

教育プログラム2は、昨今の新型コロナウイルス感染症の流行を契機に大きく変わった課題を解決する力を身につけた人材の養成を目指したプログラムです。医学部全学生を対象として、1年生から感染症の流行に関する臨床推論や臨床実習中の学生を対象とした感染症のシナリオベースの実習を開発します。

教育プログラム3は、埼玉県地域枠奨学生と地域医療に関心のある学生を対象としたプログラムです。1年次から地域診断の手法を用いた演習、2年次には総合診療とプライマリケアを学ぶなど総合的に人を診る視点、地域を視る視点を身につけます。6年生の実習では、将来働く地域の医療機関で実習を行い、その地域の課題と自らの役割を考えることを体験します。群馬大学との利根川プログラムの共同開講も実施します。

### ■ 群馬大学のプログラム

県境地域の医療情勢に重点を置いた教育



ポストコロナ時代に必要となる総合診療・プライマリケアから高度・先端医療—これらの臨床能力を身につけた地域医療マインドを持つ医療人を育成するため、群馬大学では新たな2つの教育プログラムを開発します。「はじめて学ぶ地域医療」では、地域医療の実際と医療行政について学び、医師不足地域の課題及びその解決方法について考えます。1年次を対象とし、医学科生のほか、保健学科生、共同教育学部生、理工学部生、情報学部生も履修可能です。群馬と埼玉の地域や地域医療について、専攻が異なる学生がグループワークを行い、埼玉医科大学学生との合同発表を実施します。「県境地域から学ぶ地域医療集中演習（利根川プログラム）」では、医師不足が深刻化している両県県境の医療情勢に精通する総合医の養成に向け、関連医療機関で実習に参加します。医学部医学科生1年次から参加することで、地域や住民の視点に立ち、県境地域で抱える医療的課題について学習します。2022年度、公立藤岡総合病院での臨地実習を試し、次年度以降、公立富岡総合病院、伊勢崎市民病院、桐生厚生総合病院、公立館林厚生病院、太田記念病院での臨地実習を進めていきます。

## シンポジウムのお知らせ

# 埼玉・群馬の健康と医療を支える 未来医療人の育成 シンポジウム

令和5年

3月30日(木)

会場：埼玉医科大学

かわごえクリニック (Zoom配信併用)

地域医療に関心のある大学生、高校生、保護者、教職員、並びに医療機関の皆様、本事業に関心のある方は、どなたでもご参加いただけます。視聴も無料です。



### プログラム

- ・ 1部 特別講演 / 地域医療教育、地域医療の実践者など
- ・ 2部 本プロジェクトの紹介、成果 / 群馬大学、埼玉医科大学 他
- ・ 本プロジェクトのロゴマークデザイン表彰式 / 最優秀賞、優秀賞
- ・ お問い合わせ / 埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成事務局

[sgmirai-smu@saitama-med.ac.jp](mailto:sgmirai-smu@saitama-med.ac.jp)

## 埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成 Newsletter 創刊号

編集・発行：埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成事務局  
住所：〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38  
TEL：049-276-1109  
発行日：2022年12月  
E-mail：[sgmirai-smu@saitama-med.ac.jp](mailto:sgmirai-smu@saitama-med.ac.jp)  
URL：<https://sgmirai.jp> (※2023年1月末リリース予定)

無断転載禁止

